

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2015年6月12日

No.27

2015年度 夏季手当妥結！！

基準内賃金×1.36ヶ月

2015年度 夏季手当交渉最終報告

中央本部は第4回交渉以降、職場からのたたかいを背景に会社の頑なな姿勢を打ち破り、要求の実現に向けて交渉や折衝を展開してきました。

本日21時15分より夏季手当の最終交渉に臨み、席上会社は①平成26年度は中期経営計画の1年目として役員・社員が一丸となって経営改革に取り組んできたが、景気の伸び悩みに加え、東海道線の寸断の影響もあり、運輸収入は昨年度を下回る状況となった。②経費面については災害減収や動力費や線路使用料の大幅な上昇により、最終的な鉄道事業部門の営業損失は51億円となり、7億円の悪化となった。③今年度も今後、線路使用料などの経費増が見込まれるなど、鉄道事業部門の黒字化に向けて経営環境は依然不透明であるとの考え方を示した上で、基準内賃金の1.36ヶ月分とする回答を示しました。

これに対して中央本部は①中期経営計画・事業計画の実現は貨物労組の組合員の協力が必要不可欠である。会社はこの厳しい局面をどうやって乗り越えていくのか。この回答書にはこれまで職場で会社施策に協力し、苦勞してきた組合員に対する誠意が感じられない。その経営陣の姿勢にこそ大きな問題がある。②貨物労組はJR貨物会社の発展のために汗を流す決意で臨んでいるが、職場では会社の将来を悲観して退職する組合員や、心の病に倒れる組合員もいるのが現実である。経営陣はそのことを認識し、経営姿勢を自ら改めること。③貨物労組への誹謗中傷や経営体質に課題があることを突き付け、要求額からすれば納得できる内容ではありませんがこの間積み上げてきた労使交渉を尊重し、昨年の夏季手当及び年末手当をそれぞれ上回ったこと、要求額の0.1ヶ月アップをクリアーしたことを踏まえ、妥結することとしました。

職場からの創意工夫した闘いによって、夏季手当交渉を全力で支えていただいた組合員の皆さんに対して改めて感謝を申し上げます。私たちは自らの職場と仕事と生活を守るために、これまで鉄道事業部門の黒字化に向けて具体的に汗を流し、時には血をも流す厳しい判断をしてきました。職場では要員問題など深刻な課題が山積しています。組合員の苦勞に対して、経営陣は具体的に報いる責務があります。今後も継続してJR貨物改革のたたかいによって会社の経営体質をただし、平成28年度新規採用の実現をはじめとする要求の実現に向け取り組みを強化します。中央本部はその最先頭で闘うことを明らかにし、夏季手当交渉の最終報告とします。

以上